

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 9 日

仕 事 の 内 容	節電対策					
担当部署・課長名	総務管財	課	庶務	係	課長名	岩本 尚史

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	行 - 2	-
【施策名】 効率的でスリムな行財政運営の実現	総合計画書 (ページ)	122	

予算名	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 6	財産管理費	事業 1	庁舎管理費
-----	-----	-----	-----	-------	-----	-------	------	-------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 庁舎での電気の使用量	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 電力量(kWh)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 電気の使用量を前年と比較して削減する。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 前年と比較した電力量の割合 (当年度の電力量/前年度の電力量)×100%
	③ そのために何をしましたか。 ①空調の起動抑制 ②空調の設定温度を夏は28℃、冬は19℃に設定 ③クールビズ、ウォームビズの推進	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①夏季は室温が28℃以上、冬季は服装で調節し適宜起動 ②③クールビズは5月～10月、ウォームビズは12月～3月

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
	対象指標	①の数値	kWh	693,776	681,784	677,303	/
	成果指標	②の数値	%	101	98	99	/
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方					
	活動指標	③の数値	-	-	-	/	

3 経費	事業費(実績)		円	15,563,713	13,524,994	13,699,829	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	15,563,713	13,524,994	13,699,829	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	5時間	5時間	5時間	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	21,000	21,500	21,500	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
	事業費+人件費	円	15,584,713	13,546,494	13,721,329		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成23年の東日本大震災により、東京電力の発電所に大きな被害が発生したことから、電力供給の安定化に資するために開始した。 また、地球温暖化の防止や経費の削減も目的としている。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 不用電灯の消灯や、空調のコントロールにより節電対策開始当初より使用電力が削減された。また、PPSの導入及び電力自由化の活用で、電気料金も削減された。

仕 事 の 内 容	節電対策				
担当部署・課長名	総務管財	課	庶務	係	課長名 岩本 尚史

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 特になし				
	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）				
6 市民協働	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 特になし				
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容 夏場の空調機の使用の抑制が過ぎると、熱中症の危険性が高まる。電気を使用する設備の老朽化により、電気の消費効率が低下している。電灯のLED化を検討する必要がある。この場合に、導入経費を抑える方法の研究も必要である。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 原則は28度設定としながら室温及び湿度を考慮して空調操作をすることで、使用電力の抑制と熱中症の発生防止に努めた。				
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 節電のための取り組みをより一層推進させる。 使用電力を抑制しつつ良好な環境を維持するには、電気・空調・給排水設備の計画的な更新が必要である。				
	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 不用の機器の電源OFFや照明の消灯、ノー残業デーをより一層徹底させる。 照明のLED化や空調機器の更新など、劣化してエネルギーの消費効率が低下した設備を計画的に更新して、消費効率を改善する。				
8 今後の方向性	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 庁舎改修計画の策定と、財源の確保。				
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
	成果	成果を向上させる。			経費